

私立大学情報教育協会  
平成25年度  
大学職員情報化研究講習会  
基礎講習コース報告

A班:北から南まで

1

A班:「北から南まで」の紹介

北は東北工業大学～  
南は九州産業大学まで

2

発表テーマ

三者間の円滑なコミュニケーションの基に共  
通の課題を解決していける大学

3

三者間の協力により課題を解決していける大学

テーマ選定理由(1) 大学の役割

私たちが考えた大学の役割

社会に有用な学生を輩出する

役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

学生、職員、教員の三者が主体的に動くことで多  
角的なアプローチから1つの目標を達成していかな  
ければならない。

4

三者間の協力により課題を解決していける大学

テーマ選定理由(2) 大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

三者は、個々に課題を解決を志向するのみであり、  
三者間におけるコミュニケーションが不足している。

役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？

相互の理解または自己認識を促進するために、三  
者または二者の関わる場面を増加させる。

5

三者間の協力により課題を解決していける大学

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

大学の役割、大学の現状を踏まえて、何が重要と考えたのか？

三者または二者の関わる場面を増やし、互いの理  
解または自己認識を促進し、共同して課題解決す  
ることができる基礎を形成する。



三者間の円滑なコミュニケーションの基に共  
通の課題を解決していける大学

6

## 問題点の深堀

- 学生は自分で考えられない、伝えられない  
→主体的になれない
- 教員は多様な考えの学生を受容できない  
→学生の変化に対応できない
- 職員は事務処理ばかりで考えない  
→受動的に対応しがち
  
- 自己以外の二者ともコミュニケーションをとらなければ「大学」を認識することはできない。  
→大学改革は進まない、大学は生き残れない

7

## 解決策の検討

- 課題解決のためのコミュニケーションの前に基本的なコミュニケーションを
- 一緒に何かをして、考えてみよう
- 課題解決のために、連携しよう

8

## 大学のイノベーションの提案

- ・提案の概要  
異なるアプローチから1つの課題解決を目指すことができる関係を築く
- ・何を問題として捉えたか  
三者間のコミュニケーション不足
- ・問題を解決する方法として何を提案するのか  
三者間の相互理解または自己認識を促進し、共同して課題解決することができる基礎を形成する。
- ・これを実現するために、どのようなアプローチが必要か。  
職員提案型プロジェクト  
学生の活動へ職員が参加する  
職員の学生理解を促進する  
教職協働、学職協働の促進
- ・解決されたときの姿  
問題が発見されたときに三者がそれぞれ主体的に課題解決に取り組み、1つの結論に達することができる大学

9